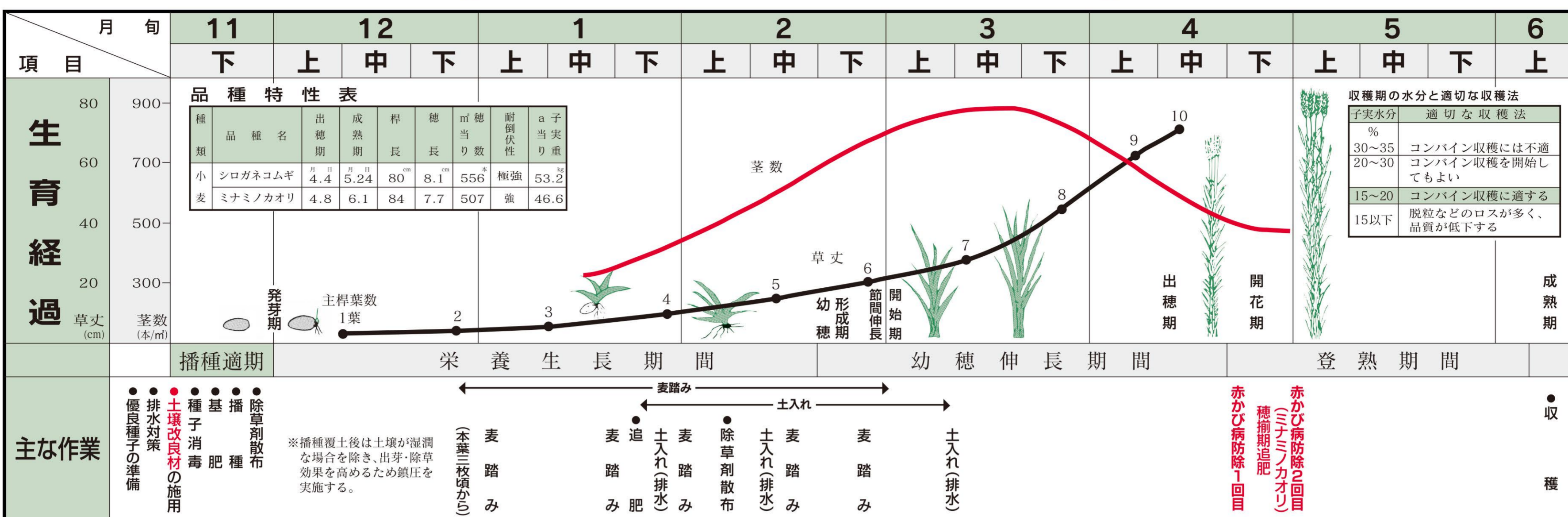


全量種子更新で高品質な売れる小麦生産に努めましょう!!

地力維持のため稲ワラを全量すき込みましょう。



近年目立つ雑草類について

雑草名	発生時期	被害状況
カズノコグサ	1月中旬～2月中旬	湿田での発生が多いイネ科雑草で、発生期間が長いことから播種直後の土壌処理剤だけでは防除し難い。
ヤエムグラ	1月中旬～2月中旬	多発すると麦を巻き倒し、収穫作業に支障を来すこともある雑草で、発生初期(1月～2月)に除草が必要。
カラスノエンドウ	4月	4月に赤紫の花が咲くマメ科植物で、麦収穫時に子実が混ざると調製で除去できないので、麦販売上の問題となる。
イヌタデ	1月中旬～2月中旬	発生場所は多くはないが近年目立つようになった雑草で、発生初期(1月中旬～2月中旬)に除草が必要。
キンポウゲ類	1月中旬～2月上旬	発生場所は多くはないが近年目立つようになった雑草で、発生初期(1月中旬～2月上旬)に除草が必要。

柳川の選ばれる小麦づくり運動

※実需者が求める品質の高い小麦づくりに努めよう!!

シロガネコムギ(日本産)

- タンパク9.7%以上～11.3%以下
- 灰分1.6%以下
- 容積重840g/L以上
- フォーリングナンバー300以上

ミナミノカオリ(パン・中華産)

- タンパク11.5%以上～14.0%以下
- 灰分1.75%以下
- 容積重830g/L以上
- フォーリングナンバー300以上

良質安定多収 8つの重点ポイント

1. 湿害(排水)対策 (弾丸暗渠の実施)
2. 地力増強
3. 種子更新
4. 種子消毒の徹底
5. 適期播種
6. 雑草防除
7. 赤かび病防除
8. 異品種の混入防止

地力増強(土づくり)

1. 有機物の施用
稲わら: 全量12～15cmの深さですき込む。
堆肥: 牛フン1～2t/10aまたは、アヅミン40kg/10a施用。
2. 土壌改良材の施用
収量・品質の安定のために、ケイ酸質資材やアルカリ資材を施用する。
ケイ酸補給: 土力の素 45kg/10a施用。
とれ太郎 60kg/10a施用。
pHの矯正: 炭酸苦土石灰 100～200kg/10a施用。
ケイ酸補給・pHの矯正: ミネラルG 140～200kg/10a施用。

赤かび病防除の徹底

「赤かび病」は麦の収量、品質に大きく影響します。特に、食品の安全性が問われる中で、かび毒であるデオキシニバレノール(DON)が取り沙汰され、農産物規格規程上、赤かび病被害粒混入限度0.0%と厳しい基準となっています。

赤かび病予防を行うことが売れる麦の最低条件となっています。

赤かび病

排水対策

①地下排水: 有材暗渠(弾丸暗渠)
②表面排水: ぼ場周囲+畦間(枕地を切り排水口に通す)
※表層排水に頼りすぎると、ぼ場の排水性が収量や品質に大きく影響を及ぼします。
降雨後の水がぼ場に停滞しないよう排水溝の整備を行いましょう。

播種時期及び播種量

☆品質向上と安定生産のため、毎年、全量種子更新を行い、充実のよい種子を用いる。(10a当り)

種類	播種適期	播種量
小麦	11月20日～11月30日	シロガネコムギ 6～7kg ミナミノカオリ

前年度ヤギシロトビムシの被害を受けた場合は、播種適期の範囲内でなるべく早く播種する。
※晩播境界: 12月15日
注意: 晩播対策: 播種量を20～40%増量する。
大豆後: 播種量を20%減らす。

種子消毒

薬剤名	対象病害虫	処理方法
ベンレートTコート	斑葉病、黒穂病、なまぐさ黒穂病	種子10kgに薬剤50gを粉衣する。
アドマイヤー水和剤	ヤギシロトビムシ	種子10kgに薬剤15gを粉衣する。
クルーザーFS30	ヤギシロトビムシ(多発田)	種子10kgに薬剤60gを薬液する。

※ベンレートTコートとアドマイヤー水和剤は混用できる。
※ヤギシロトビムシ多発田では、ベンレートTコートとクルーザーFS30を混用する。

施肥基準 (10a当り)

品種名	基肥			
	ちくこのめくみ444	麦追肥1号	確実小麦専用追肥3004	硫酸
成分(N-P-K)	14-14-14	24-0-5	30-0-4	21-0-0

※総播期追肥を尿素の葉面散布で行う場合は、開花期に実施します。(5kg/100L/10a×1回で硫酸10kg/10aに相当)
高温時に尿素葉面散布を行うと、葉焼け程度が激しくなる場合がある。
尿素の濃度が高いと葉焼けの程度が激しくなる場合がある。

赤かび病防除

品種	防除適期	薬剤	10a当り使用量
シロガネコムギ	※開花期(出穂後7～10日)	粉剤: トップジンM 粉剤DL	4kg
		液剤: トップジンM 水和剤	1,000倍 100L
ミナミノカオリ	1回目: 開花期(出穂後7～10日) 2回目: 1回目の5～7日後	粉剤: トップジンM 粉剤DL 液剤: トップジンM 水和剤	8倍 0.8L

※開花期に降雨が続く場合、シロガネコムギも赤かび病が多発するため、2回目防除(1回目防除の5～7日後)を行います。

麦踏み

12月下旬～2月下旬(本葉3枚頃～節間伸長前)にかけて分げつ促進と徒長防止のために3～5回を目途に行う。土が乾燥し、茎葉に霜や露がない条件下で実施する。茎立期以降は麦踏みはしない。

除草基準

薬剤名	適用雑草名	使用時期	10a当り使用量(希釈水量)	使用上の注意
ラウンドアップ マックスロード	一年生雑草	播種前又は播種後出芽前	200～500ml(水100L)	播種前の雑草が多い場合、周囲の作物には飛散しない様に注意する。
リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期(雑草発生前～イネ科1葉期)	60～80ml(水100L)	・砕土、整地は丁寧に、覆土深さ2～3cmになるように覆土する。 ・土壌が硬い場合は、効果低下の原因となる可能性がある。 ・まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
リベレーターG(粒剤)	一年生雑草	播種後～麦2葉期(雑草発生前～イネ科1葉期)	4～5kg	
ハーモニー細粒剤F	一年生広葉雑草	播種後～麦3葉期(雑草発生前～発生前)	4～5kg	・ハーモニー細粒剤FとハーモニーDFは、いずれか1回しか使用できない。 ・散布後、1週間以内の麦踏み・土入れはしない。
ハーモニーDF	一年生広葉雑草	播種後～節間伸長前	5～10g(水100L)	
エコパートフロアブル	一年生広葉雑草	節間伸長開始期まで(広葉雑草2～4葉期)	50～100ml(水100L)	・カラスノエンドウへの効果は低い。 ・小麦の葉身に軽微な白斑、白点などを生じることがあり、その後の生育に影響はない。
バサグラン液剤	一年生広葉雑草	小麦の生育期 収穫45日前まで	100～200ml(水70～100L)	・キンポウゲ類に効果が高い。 ・低温、曇天時の散布は効果が劣ることがある。

注) ①ハーモニーDF散布に当たって周辺作物に薬害を与えるため、散布時の飛散(専用ノズルの使用)や散布後の流出に十分注意する。
②ハーモニーDF散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間循環させた後20分間放置し、排出後清水で洗浄する。
③ハーモニー細粒剤FとハーモニーDFは、いずれか1回しか使用できない。

土入れ

1月中旬～下旬、2月上旬～中旬、3月上旬を目安として、できるだけ麦踏み前に実施する。雑草や無効分げつ抑制、倒伏防止、表面排水等に効果がある。

令和7年産小麦栽培管理記入欄

★「作付品種名」「作付面積」「主な作業月日」を記入して下さい。

品種名 作付面積	11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
シロガネコムギ a	弾丸暗渠 /～日	種子消毒 /～日	播種・基肥 /～日	麦踏み	土入れ	麦踏み	土入れ	麦踏み	土入れ	麦踏み	土入れ	赤かび防除(1回目)	赤かび防除(2回目)	収穫										
ミナミノカオリ a	弾丸暗渠 /～日	種子消毒 /～日	播種・基肥 /～日	麦踏み	土入れ	麦踏み	土入れ	麦踏み	土入れ	麦踏み	土入れ	赤かび防除(1回目)	赤かび防除(2回目)	収穫										

実需者が求める品質の高い(Aランク)小麦づくりに努めよう!!

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう。